

### 横芝の碑 (その二十九)

#### ◆創立記念百年祭を 還暦で迎える校门◆

横芝小学校は、いま、体育館等の増改築工事と、創立百年祭の準備に大奮です。

この学校には、二つの門があります。一つは、東町通学路に面した玄関前に建っていて、いま一つは、鳥喰方面から、役場に通ずる道路に面した校庭に付いて建っています。通学途中の子供さんに、

「君の学校の正門は、」と聞いて見ますと、正門、という言葉には全く無関係な様に、「東町の方から来る人は、玄関前の門から入りしているよ、」という返事がありました。ところが、或る子供さんは、こんな返事もしてくれませんでした。

「僕は、玄関の方が正門だと思っただけ、お父さんは、校庭の門が正門だと、思っているらしいよ。だって僕が『校庭の門』というのと、『ああ、正門か』っていうの」「私のお父さんもそうよ、自動車を送ってもらったとき、『正門の前でいい』って言ったのに、玄関前を通りすぎて校庭の門まで行っちゃったわ」等というのです。

校庭の門―校庭に直接入るこの門には、長い間、学校の門、ということで、この学校を卒業した人々には、忘れることの出来ない、数々の思い出が秘められているのです。

横芝小学校は、今から百年前、明治七年に、本町観音寺に、横芝尋常小学校、として創立されました。其後、明治四十五年に高等科が併設されて、横芝尋常高等小学校、となったのです。そして、大正四年には、大字原田(略現在の場所)に新校舎を建設して移転したのです。その頃は、小学校も既に、創立以来四十年を経過して、

ましたので、卒業生の方々は、年齢的に見ましても、各方面の有力者として活躍をしておられました。この人々は、新校舎落成の喜びを何かの形で表したい、というように考えていましたが、丁度その年は大正天皇御即位祝賀の儀式が催された年でもありました。この儀式は、当時、御大典、と称して、国を挙げての盛儀だったのです。そうした、記念すべき年の校舎落成、というので、特に有志の方

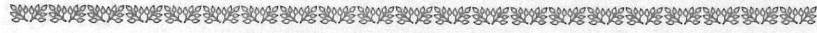
々が相談して、建てたのが、この校庭に建っている、所謂校庭の門なのです。

其後も、横芝小学校には、いろいろなことがありました。戦時中



横小運動場から望む門柱

ノートの代りに藁半紙、教科書も一冊を二人で読み、委託加工のコツペパンに舌鼓を打った、あの日の頃、冬季を除いては、殆んど裸足通学、教室の入口には、足拭



でしょう。

写真は、校庭から眺めた、校庭の門と呼ぶ昔の正門です。花崗岩の荒削で、二本の門柱には振分けに、御大典記念、大正四年十一月と刻まれ、門柱の裾の辺りには、建立協賛者と思われる人々の氏名が刻まれています。(判読し難く脱字や、誤字があるかも知れませんが、予め、お詫びと、お断りを申し上げます。)五木田兼吉、土屋熊吉、押尾精三郎、黒川初太郎、植村智吉、土屋久蔵、伊藤彦蔵、押尾真澄、伊藤英太郎、藤井恭之助、大木利平、早川兵造、大木善嘉、鈴木桂治郎、早川仁平、齊藤宇兵衛、市原利作、野村義良、宮永留吉、宇井善右衛門、越川兼治郎、太田〇太郎(敬語は略しました)と読みとれました。表には横芝町立横芝小学校、と焼付けられた瀬戸の標札が小さく嵌め込まれ遠慮勝ちに見えるのが印象的です。中央前方の門は民家の門で、交通標識の見える道路は役場へ通じています。尚、増築工事のため、本稿が広報に掲載される頃は、この門の使用を中止していると思います。(本稿取材に当り、横小の斉藤PTA会長さんと本間収入役さんの御協力をいただいたこと、場所は既に御存知のことと考えて案内図を省略させていただいたことを申添えます。)

(養護老人ホーム小沢所長寄稿)

は、国民学校となり、青年学校が併設され、時には軍事教練の場となったこともありました。更に、高等が新制中学に改制分離するなどのこともありました。戦時中の「欲しがりません、勝つまでは」と頑張り、終戦後の混乱時には、

用の雑巾が置いてありました。総て懐かしい思い出です。そして、大正四年以来六十年、将に還暦を迎えたこの門は、「いまの子供達は幸せだなあ、」と思いつら、これから後も、何十年、何百年と、じーっと、建ち続ける